



江戸東京研究センター・シンポジウム 江戸東京の妖怪アート

—文化遺産としての位置づけと活用のあり方—

江戸後期において娯楽の対象となった妖怪は、様々な絵画や文学に描かれました。当時作られた妖怪イメージは近現代にも継承され、現代のマンガやアニメに影響を与えるだけでなく、妖怪をテーマとした地域のまちづくりにも利用されています。本シンポジウムでは、妖怪関連の資料の歴史的・芸術的価値について考察することからスタートし、現代の妖怪マンガの解釈を試みるとともに、妖怪アートをまちづくり・まちおこしに活用した事例研究をとりあげます。

〈発表1〉

湯本豪一 (妖怪研究者)

「江戸・東京の妖怪情報—作品と記録の混在と融合」

コメント 横山泰子 (法政大学理工学部教授)

〈発表2〉

岡村民夫 (法政大学国際文化学部教授)

「杉浦日向子 江戸／東京の怪」

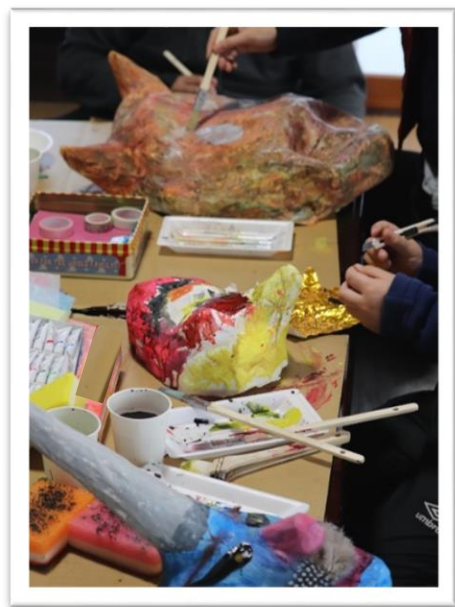
コメント 神谷博 (法政大学江戸東京研究センター客員研究員)

〈発表3〉

市川寛也 (群馬大学共同教育学部准教授)

「まちを楽しむ方法としての妖怪アート」

コメント 山道拓人 (法政大学デザイン工学部専任講師/ツバメアーキテツク代表)



2022年 **11月12日** (土) 14時~18時

法政大学市ヶ谷キャンパス・外濠校舎4階S405教室



参加無料・対面開催のみ

- ・事前申込が必要です
- ・オンライン配信は行いません

事前申込:<https://forms.gle/YiP1sWcA3CKYE54M7>

EToS

江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies



法政大学
HOSEI University

法政大学江戸東京研究センター
102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
Email: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp